



「溝の石積」

田園風景の残る里山

越知町おながわ女川の久万目川流域に、“日本の原風景”とも言える昔ながらの田園風景がわずかながら広がっている。市街地東端に接する低地に水田とその間を縫って流れる小川・久万目川、溝が演出する、何となくホッと癒されるのどかな風景である。

9月下旬に訪れてみると、黄金色にまぶしく色付いた稲が絨織のように埋め尽くし、その間を小さな溝（用水路）が緩くカーブを描いて流れ、それに沿って曼珠沙華が赤いパールのように咲き誇っていた。感激したのはそれだけでなく、この溝は大変凝っていて、川幅がわずか60センチ足らずであるが、両側面が22～23×32～35センチの砂岩（“田鶴石”？）で築かれていて、長さが150メートルほどもあり立派なことである。先人の苦勞と芸術性を備えた貴重な“遺産”であるので、間違っても将来コンクリートで覆ってしまうことのないようこのままの姿で後世に残して欲しいものである。

ところで、“彼岸花”とはよく言ったもので、不思議とお彼岸の頃になると咲き始める。厳しい夏の暑さも遠のき朝夕も過ごしやすくなり、虫の音も賑やかさを増し、そして月もきれいになる...そんな夏から秋への季節の変わり目に咲く花である。

この時期この地域では、水田の一部は既に稲刈りが終わり、束ねられた稲が竿に掛けられ天日干しにされていた。それとは裏腹に、数日前の台風で雨に浸かって倒れた稲を農家の人が丹念に長い棒で少しずつ起こしていた。先の甚大な被害をもたらした東北地方太平洋沖地震、そして紀伊半島を襲った台風もそうであるが、人間はいつも自然との“闘い”である。悲しいが自然の力には為す術もない...

しかし、自然は人間の傷ついた心をも癒してくれ、またいろんな恵みも与えてくれる。戦前、この久万目谷の出口付近（字名：塩田）の旧街道沿い（国道33の下）に、イオウ（硫化水素）の臭いのする温泉（鉱泉）が湧出していて、4棟ほどの建物を構えた“温泉旅館”（「越知温泉」）があって人々の疲れを癒し大いに賑わっていたそうである。この泉脈は、「黒瀬川構造帯」と呼ばれる大断層に沿って地下深部から上昇してきた蛇紋岩地域に属し、これより西方でかつて営業していた同名の越知温泉と同じ成因のものである。

人間の心を癒してくれる、このような数少ない貴重な風景がいつまでも残って欲しいものである。

横倉山に於ける希少植物に関する調査について

大 倉 浩 典

平成23年度は、平成19年に発行された環境省編第3次レッドリスト（絶滅危惧植物のリスト）見直しのための現地調査が開始された。高知県では牧野植物園に本部を設置、該当する植物が過去に採集された場所で現在も生育しているかどうか、また生育している場合は「生育株数」「開花・結実株数」「以前からの増減」「減少の要因」などを調査することになった。横倉山関係ではクマガイソウ、ミヤマガンピ、ヒキノカサ、フナバラソウ、キンセイラン、ムカゴソウ、イガホオズキ、ヤマホオズキ、イヌトウキ、トサボウフウ、ヒナシャジン、ウンヌケモドキ、コオロギランについて調査を行っているので中間報告をいたします。

クマガイソウ（熊谷草）・らん科

高知県＝絶滅危惧 A類・環境省＝絶滅危惧 類
杉林や竹林に多い多年草。

茎は高さ20～40センチ、
葉は扇形で花は4～5月に開花、直径約10センチで唇弁が袋状となる。

〔横倉山での採集記録〕平成17年5月18日・横倉山一本木（3次メッシュ34）

〔調査結果〕平成23年5月27日横倉山一本木で現存を

確認、平成17年には11株の集団が今回は40株の集団に成長し内4本が開花。また三嶽古道沿い〔3次メッシュ35で新たに13株（内5本開花）〕の集団を発見。なお横倉山南斜面にも3集団あり。

ミヤマガンピ（深山雁皮）・じんちょうげ科

山地の岩石地に見られ高さ1メートルほどの落葉低木。葉は対生し花は5～7月本年枝の先に白い花を普通2個ずつつける。

〔横倉山での採集記録〕平成元年5月21日・横倉山（3次メッシュ36）

平成19年5月16日・横倉山カプト嶽（3次メッシュ37）

〔調査結果〕平成23年5月31日第1駐車場から南遊歩道を歩きカプト嶽の鎖場付近から痩せ尾根伝いに調査、樹高30～50センチの貧弱な開花株25株を確認。3次メッシュ36でミヤマガンピと言えば住吉で鉄の

鎖を伝って住吉神社に向う途中の岩場には、樹高1メートル前後のミヤマガンピの成木が密生。足場が悪いので正確な数は確認できないがその数75本以上。

ヒキノカサ（蛙の傘）・きんぼうげ科

高知県＝絶滅・環境省＝絶滅危惧 類

キツネノボタンとの仲間で、高

さ10～30センチ、流れのふちなどに生える多年草。4～5月頃枝上の花柄に直径1.5センチほどで花弁は5枚楕円形で光沢のある黄色の花をつける。

株元からヒゲ根の他に数個の紡錘状の小塊根があるのが特徴である。

〔横倉山での採集記録〕明治

39年6月11日・横倉山（3次メッシュ36）

〔調査結果〕横倉山で3次メッシュ36は横倉宮近辺ということで、この辺で水辺となると陵墓参考地前の谷筋しかなく、平成23年6月27日谷筋を上流から馬鹿試しの下まで調査したが見つからなかった。高知県では明治39年横倉山で採集された標本があるだけで、その後県内いづれからも報告がなく高知県のレッドリストでは絶滅種となっている。もしどこかで見つければ横倉山自然の森博物館までご一報下さい。

フナバラソウ（舟腹草）・ががいも科

高知県＝絶滅危惧 A類・環境省＝絶滅危惧 類

山野の草地に生える多年草。茎は直立し高さ40～80センチ、葉は楕円形～卵型、夏上部の葉腋ごとに濃褐紫色の花を束にしてつける。

〔横倉山での採集記録〕昭和16年7月6日・横倉山（3次メッシュ36）

平成2年5月30日・桐見川タールサ（3次メッシュ03）

採集者・日浦俊夫氏

〔調査結果〕3次メッシュ36で草地となると畝傍山眺望所と空池と見当をつけ、ヒキノカサの調査と併せて調査したが確認出来なかった。平成23年7月3日現場を直接ご教示いただくことと桐見川に採集者の日浦氏を訪ねたが、残念ながら平成18年にお亡くなりになられたそうで、周辺を調査したが今回は確認



「3次メッシュ36」とは、環境庁発行の都道府県別メッシュマップの各ページを更に00～99に分割した小さいメッシュの番号で、横倉山では横倉宮周辺に当たります。

できなかった。ただ桐見川はススキの多い所で、生育場所としては最適で来年再調査を予定している。もし現物をご存知の方はヒキノカサ同様博物館までお知らせ下さい。

キンセイラン（金星蘭）・らん科

高知県 = 絶滅危惧 A類・環境省 = 絶滅危惧 類
山の木陰に生える多年草。

葉は4～6枚ほど根生し細長く巾4センチ以下、花茎は高さ30～60センチ、花は6～7月頃まばらに5～12個つき黄緑色。

〔横倉山での採集記録〕平成19年7月14日・横倉山一本木（3次メッシュ34）

〔調査結果〕平成23年7月10

日・今年も無事開花を確認。



ムカゴソウ（零余子草）・らん科

高知県 = 絶滅危惧 A類・環境省 = 準絶滅危惧

やや湿った草地に生える多年草。茎は高さ20～45センチ、中部に1～2枚互生し7～8月穂状の花序に淡緑色の花を多数つける。地下には数本の細根と2個の球状の根がある。

〔横倉山での採集記録〕昭和56年8月28日・横倉山奥の院東側（3次メッシュ36）

〔調査結果〕平成23年7月28日、横倉山奥の院（横倉宮）東側は現在の横倉宮前の休息所周辺となるので調査したが見付からなかった。なお後日イガホオズキを出逢い峠で調査中、ムカゴソウらしきもの発見。残念ながら花も終り（結実なし）葉も傷み同定が難しいので来年再調査の予定。

イガホオズキ（稔酸漿）・なす科

高知県 = 絶滅危惧 A類

山地の木陰に生え高さ50～70センチの多年草。葉は卵形～広卵形で2～4センチの葉柄がある、6～9月花は葉腋から2～3個下ってつく、花時の萼は長毛があり果時には刺状の突起となり、果時の萼は果実を完全には包まない。

〔横倉山での採集記録〕平成11年7月4日・横倉山空池（3次メッシュ36）

平成17年8月27日・林道横倉～長者線沿（3次メッシュ55）

採集者・岡部 優君

〔調査結果〕平成23年10月3日空池の中央部の草地でイガホオズキ10株を確認。最初2株の集団が11年後5倍に増加した。なお、林道横倉～長者線沿いでは確認できなかった。また平成23年9月5日横倉山出逢い峠（3次メッシュ35）の南斜面でイガホオズキ70本以上の大群生地を新たに見つけた。

ヤマホオズキ（山酸漿）・なす科

高知県 = 絶滅危惧 A類・環境省 = 絶滅危惧 B類

山地の谷間に生えまれに見られる多年草。茎は高さ30～60センチ、葉は卵形～卵状楕円形で小数の粗い鋸歯がある。花は8～10月葉腋ごとに1個ずつつき、花のあと萼は大きくなり緑色の卵球形で液果を包みホオズキに似るが、稜はあまり角張らず外面にはまばらに突起がある。

〔横倉山での採集記録〕平成17年9月23日・横倉山平家穴に下る道（3次メッシュ36）

〔調査結果〕平成23年9月23日、現地では1本だけ確認。高知県では非常に個体数の少ない植物で、過去に採集されたのは横倉山と堂ヶ森の2ヶ所だけ。最近では全く姿を消していたが、横倉山では平成16年8月台風16号の直撃で巨木・古木が吹き飛ばされ林床が明るくなったためか、翌年の平成17年突然ヤマホオズキが復活、一時は100本以上も群生したが再び減少をはじめ昨年・今年と確認できたのは1本だけ、来年からは再び次の台風まで姿を消すかも知れない。



イヌトウキ（犬当帰）・せり科

高知県 = 準絶滅危惧

高知県では主として川岸や石灰岩の岩場に生える高さ40～80センチの多年草。葉は長柄があり1～3回3出複葉で葉鞘は膨大する。7～11月複散形花序に白色の小さい花をつける。

〔横倉山での採集記録〕平成14年9月29日・横倉山馬鹿試し（3次メッシュ36）

〔調査結果〕平成23年9月23日石灰岩の割目に根を下ろしたイヌトウキを調査した結果全部で15株。以前はもっと多かったと思うが意外と少なく、しかも貧弱で開花するような株もなかった。この断崖は南向きで陽射が強く、生育不良の原因は温暖化による高温障害かも知れない。

トサボウフウ (土佐防風)・せり科

高知県 = 絶滅危惧 類・環境省 = 絶滅危惧 類
高知県と徳島県だけで見られ石灰岩の乾燥した岩場に生える多年草。イシズチボウフウに似て全体大形、葉の切れ込みがやや少なく光沢がとぼしい。
〔横倉山での採集記録〕採集者名不明・横倉山馬鹿試し(3次メッシュ36)
〔調査結果〕平成23年9月23日調査をしたが見つからなかった。

ヒナシャジン (雛沙参)・ききょう科

高知県 = 絶滅危惧 B類・環境省 = 絶滅危惧 類
高知県と愛媛県の石灰岩地にだけ自生する多年草。茎は細く長さ40~60センチ岩壁から垂れるか草地のもの斜上する。茎葉は線状披針形で互生、花は8~10月茎頂に散房状にまばらにつき細い釣鐘形で花柱は花冠から長く突き出る。
〔横倉山での採集記録〕平成14年9月26日・横倉山(3次メッシュ36)
採集者・岡部 優君
〔調査結果〕馬鹿試し下でイヌトウキ・トサボウフウと併せてヒナシャジンの調査も行い、結果は23本(19本開花)を確認した。



ウンヌケモドキ (牛の毛擬)・いね科

高知県 = 準絶滅危惧・環境省 = 準絶滅危惧
乾燥地の草原やアカマツの疎林下に多い多年草、そう生して大きな株を作る。葉及び鞘に白毛が目立ち、9~11月花序は4~7個の紐状の総で黄褐色長さ10~15センチで斜上する。ウンヌケと異なり稈の基部の鞘に黄褐色の短毛がなく赤褐色である。近年横倉山では確認されていない。
〔横倉山での採集記録〕昭和35年10月22日横倉山(3次メッシュ36)
〔調査結果〕平成23年10月3日イガホオズキの調査と併せ畝傍山眺望所や空池を調査したが確認できなかった。なお現在も調査中。

コオロギラン (蟋蟀蘭)・らん科

高知県 = 絶滅危惧 類・環境省 = 絶滅危惧 A類
常緑林や杉林の暗い林床に生える多年草。茎は高さ5~10センチ、茎の中程に三角状の小葉を1個つけ、8~9月茎頂に2~3個の小さい花をつける。基準産地は横倉山である。
〔横倉山での採集記録〕昭和16年8月28日・横倉山杉原神社付近(3次メッシュ36)

平成16年9月15日・横倉山
山小屋~安徳水(3次メッシュ36)
平成16年9月9日・横倉山
横倉宮周辺(3次メッシュ36)
平成14年9月29日・横倉山
(3次メッシュ46)

〔調査結果〕今回の調査で一番骨の折れたのがコオロギランでした。今までの植物調査は「有るか」「無いか」で良かったのですが、今回は有る場合は更に「何本あるか」ときますので対象物が小さい上に結構群生しているコオロギランの場合は、目は霞むし腰は痛くなるし、おまけに通りがかった登山者には「何を探しますか?」と尋ねられ「コオロギランの数を数えます」と答えると皆さん「へえ...」、いやはや大変な調査です。しかし、考えてみれば基準産地の横倉山にコオロギランが何本あるか一度位は調査しておくのも必要ではないかと思ひ(ちなみに同じ基準産地が横倉山のヨコグラノキは手で触れる範囲で58本です)自分自身を叱咤激励しながら調査を続けております。

杉原神社付近...138本以上

近道13本以上、表参道下13本以上、トイレ東入口112本以上

山小屋付近...414本以上

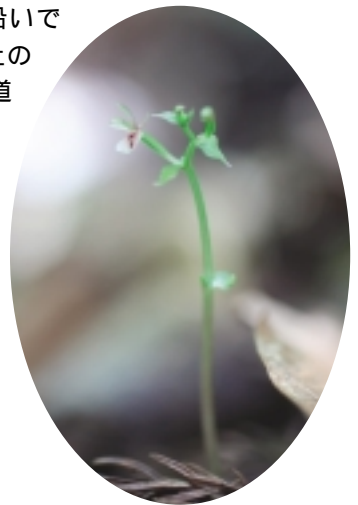
山小屋東側(トイレ西入口)114本以上、道の前300本以上

安徳水の途中...445本以上

道左側上350本以上、道右側下95本以上
小橋(山小屋-行在所跡)周辺...250本以上
上左側100本以上、手前道下側150本以上
横倉宮周辺...260本以上

北側休憩所50本以上、陵墓参考地周辺210本以上

以上とは別に三嶽古道沿いで空池の下辺りに5300本以上の大群落が、同じく三嶽古道一本木(3次メッシュ35)に3200本以上の大群落あり、なお採集記録の横倉山(3次メッシュ46)は恐らく林道横倉-長者線沿いと思われるので目下調査中です。



(おおくら こうすけ / 元高知県立中央高等学校教頭・植物研究家)

“土佐桜” 石灰岩あれこれ

安井 敏夫



横倉山石切場（市山）

横倉山の約4億年前の日本最古の石灰岩は、昭和30～40年代まで建築用石材（石材名：“土佐桜”）として何ヶ所

で盛んに切り出されていた。

当初は、地山から切り出した原石を、木馬きんまに乗せて急な南斜面の坂道を少しずつ慎重に麓まで運んだそうである。その軌道の痕跡は市山地区に比較的好く残っていて、雑草や落葉に覆われているが、一間幅いっけん（約1.8m）ほどの木馬道が続いているのが見てとれる。その後機械化が進むと、ワイヤーを張って積み出し口まで原石を飛ばし、そこからトラックに積んで運ぶようになり、大量に生産できるようになった。その結果需要が一気に高まり、昭和40年代初めのピーク時には、切り出した原石の7、8割を県外に移出し、県内はもとより、北は北海道から東京、長野など全国至る所でビル（主として公共施設）や高級住宅の壁面・応接間のマンツルピース・階段・柱などの建築用石材として使用されるようになった。

この度、越知町と交流のある友好交流町・北海道の滝上町との10周年記念として、越知町からは町にふさわしいものということで、“土佐桜”石灰岩に「絆きずな」という文字を刻んだ置物を謹呈することになった。

“土佐桜”石灰岩が使用された建造物は県内にもあちこちに見られるが、中でも旧土電西武百貨店高知店と高知市民図書館が最もその使用面積の規模が大きかった。残念ながら旧土電西武百貨店高知店は平成18

（2006）年に取り壊される運命となったが、幸いにも“土佐桜”石灰岩の貴重さに理解を示してくれたビル所有の県外の不動産開発業者が、跡地に建設するテナントビルへ再利用すべく多額の費用をかけて丁寧に剥がしてくれた（『不思議の森から Vol.15』, 2006）。“土佐桜”が蘇る...と安堵したが、結局その後の建築用材の価格の高騰でビル建設が中止となってしまい、土地の物件は他の業者に移ることになり全く別の用途のビルが建設されたためどうなったのかわからない。折角回収した大量の“土佐桜”石灰岩は、一体どうなるのであろうか？

心配なことに、高知市民図書館も今度県立図書館と併合することになり、現在設計の準備段階にある。もし最後に残った高知市民図書館までもが取り壊されるようなことになれば、高知



高知市民図書館

県を代表する石材“土佐桜”が見られなくなってしまうことになる。4億年前の日本最古の優美な石灰岩、しかも、はるか南の赤道付近からはるばるやってきたというロマンに満ちた“生きた教材”を行政の方で何とか守って欲しいものである。現在の日本国憲法の草案に大きな影響を与えた『大日本国憲案』が起草された歴史的にも大変意義のある土佐の自由民権運動の思想家・植木枝盛郎がついに最近取り壊されてしまった（部屋は移

築“保存”されたものの...）ように、高知県の歴史を語る貴重な資料が失われないよう、確実に後世に伝えていくためにも。

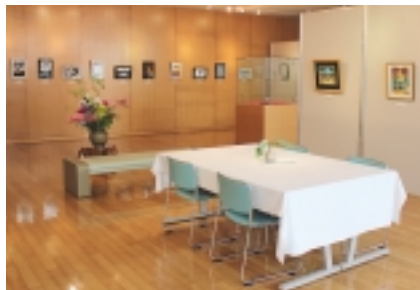
（やすい としお / 横倉山自然の森博物館学芸員）



“土佐桜”（絆）

博物館行事

春季企画展：『濱崎一途・松本卓弥 二人展
- 即興詩と切り絵の世界 -』
2011年4月9日(土)～6月19日(日)



路上詩人・濱崎一途さん（通称：はまじ）と切り絵作家・松本卓弥さんの若き二人の作家による感動の作品展。

濱崎さんは、路上で音楽を聞きながら思い浮かぶ情景やインスピレーションで人の心情を格言風な詩に代えて即興で詠み、独特の書体で色紙にしたための個性的な詩人。写真や絵にそっと添えられた詩は、

私たち現代人がとかく忘れがちな、また失いつつある本質的な文句で、ふと我に返らされる思いで感動的である。

濱崎さんは、幼い頃から児童養護施設で育ち、“親の大切さ”を痛感しており、路上活動で得たお客様の善意の“気持ち”である売上げの一部を毎年県内の児童養護施設に寄附し、子供たちに“夢”を与え続けている。

一方、松本さんは、見事なカッター裁きでこれが切り絵かと目を疑うほどの繊細なタッチの切り絵やペン画を創作する作家。平成21年には、講談社の『第4回展示・販売用ポストカードイラストコンペ』の「ポストカード部門」に応募した切り絵で優秀賞を受賞した実績があり、モノクロから色彩豊かな切り絵まで芸術性の高い作品に仕上げている。

松本さんも、最初デザイナーを志望していた頃、職場の人

間関係からくるスランプに何年か陥った時期があり、そんな時に出会ったのが切り絵だったようである。越知小学校での総合学習で切り絵教室の指導を行なってから作品に込められた自らの思いを人に伝える“自信”が付き、以後心機一転して活発な創作活動を行ない、今日に至っている。

二人とも、若い頃の苦い生活環境や経験などの苦境を克服して現在に至っただけあって、作品には迷いがなく“心”がこもり、人々の心に強く訴えるものがある。

これら、若き新進気鋭の二人の作家の発展を祈り、彼らの芸術作品に接し、感動や何らかの人生訓を見出す一つのきっかけになってくれることを願って本展を開催した。

主な感想として、「切り絵にも感動しましたが、詩には教えられることが多く学ばせてもらいました」「凄く大切なことを言ってくれてる気がしました（とても大切なことを考え直すことができました）」「詩に“力”をいただきました。明日もがんばります」などがあつた。

《関連イベント》（各2～3回、日曜日）

「切り絵教室」（有料）及び実演

「即興詩」

（各人に応じた教訓の詩を色紙に書いてもらう 有料）



第33回 高知県写真家協会展『土佐』 選抜移動展

2011年6月25日(土)～7月3日(日)

「高知県知事賞」「高知市長賞」「協会奨励賞」など受賞作品24点と選抜作品26点、計50点を展示。

「郷土の記録を自分たちの力で残したい」を協会の主旨に、毎年貴重な、芸術性の高い力作が展覧され、人々の目を楽しませてくれる。

企画展：『からくり - 木のからくりおもちゃと遊ぶ -』

2011年7月23日(土)～9月4日(日)

『からくり』は、日本人特有の繊細さと豊かな想像力によって編み出された日本の伝統的な機械仕掛けの人形や模型である。わが国には室町時代に現れ、当時は貴族の鑑賞品であったと言われているが、江戸時代（中期）になると庶民の間にも広がり、茶運び人形・段返り人形・春駒人形などの精巧でユニークな作りの「からくり人形」が登場してくる。その中でも特に有名な“茶運び人形”は、江戸時代の土佐藩出身のからくり師・細川半蔵（からくり半蔵）の考案・製作によるものである。

今回の企画展では、『からくり』の中の娯楽性・遊戯性の強い“からくりおもちゃ”に焦点を当て、高知県にふさわしくぬくもりのある木で作ったいろんなからくり仕掛けのおもちゃで遊び、親しみをもってもらうことを主な目的とする。夏休み企画展ということで、からくり人形や郷土からくり玩具の展示の他、童話のからくり・昆虫のからくり・音からくり

など約30点の“からくりおもちゃ”に見て、触れて、そして実際に体験できる「参加・体験型」の楽しい企画展とする。また、からくりのしくみについても考え、“考える企画展”にもした。

今回は“おもちゃ”ということで、やはり子どもの来館



者が多く、いろんなからくりで楽しんでもらうことができたようである。また、“からくり箱”も数種設置していたため中・高校生や大人にも人気があつたようである。

「からくり箱がとてもおもしろかった」「からくりって面白いですね。作品にさわったり箱を開けたり楽しめました」など圧倒的に『楽しかった、おもしろかった』という意見が多かった。

《関連イベント》（期間中毎土曜日開催）

〔工作教室〕 - オリジナル工作キットで作ろう -

《夏休み博物館教室》

〔工作教室〕

魔訶不思議！ オリジナル万華鏡作り、その他

2011年8月7日(日)〔講師：橋本 優（日本リサイクル万華鏡協会） 参加者：小人20名（幼児1） 大人12名〕

今年もリサイクル製品を使った夢のある「オリジナル万華鏡」作りを行う。今から約200年前にスコットランドで発明された万華鏡は、幕末には日本に入り、長崎から江戸幕府に献上されたといい、もしかすると坂本龍馬も万華鏡を見たかもしれないということであつた。

毎年制作に要する時間が早くなり、今回は残った時間でスライム作りを行う。スライム作りの材料は、PVA（ポリビニールアルコール）洗濯のり・ホウ砂（四ホウ酸ナトリウム）・絵具で、のりと水を等量混ぜ、ホウ酸は飽和水溶液とし、最後に絵具で着色する。

「万華鏡を作ったことがなかったので、すごく楽しかったです」「最初は難しかったけど段々楽しくなりました。すごくきれいにできました」「キラキラの万華鏡がとってもきれいでできてよかったです」などの思いが寄せられた。



〔昆虫教室〕

世界の昆虫の話

2011年 8月14日(日)〔講師：海地節雄(高知昆虫研究会)
参加者：小人12名(幼児4) 大人10名〕



地球上の動物120万種余りのうち昆虫は約100万種。そのほとんどが東南アジアとアマゾン流域に生息。今回は世界の昆虫標本と映像を使って、昆虫の種類や形・色の変異〔例：メガネトリバネアゲハは、回りの環境(植生)の違いによって翅の色が赤・緑・青の

異なったものが生じる)などについて学習する。標本にするために昆虫を固定する「展翅」の仕方学ぶ。

「いっぱいほくが知らないことがわかって良かったです」「昆虫のいろんなことがわかって良かったです」「世界の蝶は羽が硬そうだった。日本の蝶は色が地味」などの感想があり、質問コーナーでは、「北極・南極には昆虫はいるか?」「蝶の色

は地域によって何故違うのか?」など高等な質問もなされた。

〔化石教室〕

約2億2000万年前の

二枚貝・モノチスの化石採集

2011年8月21日(日)〔講師：安井敏夫(横倉山自然の森博物館学芸員) 参加者：小人10名、大人8名〕

今年も中生代三畳紀後期の示準化石・モノチスの化石採集を行う。土地の所有者に事前に採集許可を得、参加者にも「化石採集のマナー」を徹底し、採集した化石を大切に整理・保管することを伝える。

「化石は簡単には見つからないとわかりました」「化石を見つけるのは大変だったけど楽しかった」「化石は最初はなかなか見つからなかったけれど、だんだんコツがわかってきてたくさん見つけてうれしかった」などの感想があった。



友の会だより

「東洋のマチュピチュ」見学

2011年 5月15日(日)〔参加者：会員18名(内事務局2)〕



愛媛県新居浜市の旧別子銅山跡の東平地区は、標高750mの山中にあって、大正5年から昭和5年までの間別子鉱山(日本三大銅山の一つで世界の産銅量を誇った)の採鉱本部が置かれ、社宅・小学校・劇場・接待館などが急な山の斜面にへばりつくように建ち、かつて

大変な賑わいを見せていた。その様子・立地条件が一見、南米ペルーのインカ帝国の空中都市・マチュピチュに似ていることからそう呼んだ所、従来よりも観光客が増えたという。地域の産業の歴史を後世に伝え、併せてそれを観光にも生かすという一石二鳥のやり方は理想的なスタイルである。

坑道を利用した展示室や鉱山の歴史を伝える歴史資料館もあり学習効果もある。メインは厚重な花崗岩造りの貯鉱庫跡であるが、できればもう少し当時の人間の「生活の匂い」のするものがあるといいと感じた。

「横倉山ヒメボタル観察会」

2011年 6月29日(水)〔参加者：大人21名(内事務局3) 小人3名〕

今年は、昨年に比べるとヒメボタルの数は少なかったが、その代わり、仁淀川と横倉山の発光キノコを撮影している県内の有名写真家・高橋宣之氏がこの日たまたま横倉山を訪れていて、発光キノコのすぐ近くの落ち葉の上で無数の小さな発光する菌糸(?)が群がっている様子が見られた。それはまるで、地上に無数の星を散りばめたように見えることから、「地上の星」という大変ロマンチックな呼び名が付けられた。

「池掃除とからくり工作」

2011年 7月16日(土)

今年は久しぶりに博物館の池の掃除を行った。安藤忠雄氏の設計による建築物(「安藤建築」)には、スロープとともに水を張った「水庭」がしばしば付随しているが、定期的に汚れを落としてやる必要がある。当館の場合、高知県の特産という理由からなのか白い石灰石が床一面に敷き詰められている。長い歳月の間に石の表面に付着したゴミや藻を丹念に取り除いてやると水が清らかに輝いて見える。何でもそうであるが、維持していくためには、相当な目に見えない苦労が必要である。

掃除終了後、企画展に先立って「からくり工作」を行い、企画展で展示した。



横倉山三二歳時記

ヤマホオズキ

今年の9月、横倉山で珍しいナス科の多年草「ヤマホオズキ」(*Physalis chamaesarachoides* Makino)の個体が新たに見つかった。かつて(戦後)は、県内では堂ヶ森(西土佐村)とここ横倉山の二ヶ所のみ確認の記録があり、横倉山では一頃は100本ほどもあったようである。しかし、その後は両地域でも見られなくなっていたところ、平成17(2005)年秋に約40年ぶりに横倉山で1株見つかった(『不思議の森から Vol.14』, 2006)。

これは、平成16年の台風の暴風で横倉山の森が大きな被害を受け、巨木がなぎ倒されたり折れたりして、明るく日当たりがよくなったことによるものと考えられる。発見した大倉浩典氏(植物研究家)の話によると、「種が地下でじっと何年も耐えていたのであろう」ということである。あれから6年、木々や下草も大分生い茂り、来年当りにはもしかするとまた消えるかもしれない...ということである。

植物が如何に微妙な環境変化に左右されるのかを知らされると同時に、植物の生命力には只々驚かされるばかりである。自然の成り行きに従うしかない。



〔博物館日誌(抄)・平成23年度博物館行事予定〕

- 4月9日(土)~6月19日(日)
春季企画展:『濱崎一途・松本卓弥 二人展 - 即興詩と切り絵の世界 - 』
- 6月25日(土)~7月3日(日)
第33回 高知県写真家協会展『土佐』 選抜移動展
- 7月23日(土)~9月4日(日)
夏休み企画展:『からくり - 木のからくりおもちゃと遊ぶ - 』
- 8月7日(日) 夏休み博物館教室〔工作〕
- 8月14日(日) 夏休み博物館教室〔昆虫〕
- 8月21日(日) 夏休み博物館教室〔化石〕
- 8月28日(日) さわってみよう! ヘビ・トカゲ
- 9月23日(金・祝)~2012年1月9日(月・祝)
秋季企画展:『みんなで選ぶ! おもしろ アニマル フォトコンテスト&写真展Part 』
- 平成24年3月3日(土)~4月8日(日)
企画展:『「まんが甲子園」作品展』

〔博物館友の会「フォレストクラブ」の平成23年度活動予定〕

- 5月15日(日) “東洋のマチュピチュ”別子銅山跡視察
- 5月 友の会運営委員会
- 5月5日(木・祝) 呈茶(3階展望ロビー)
- 5月28日(土) 友の会総会
- 6月29日(水) 横倉山ヒメボタル観察会
- 7月16日(土) 池掃除とからくり工作
- 8月 スターウォッチング~夏の天の川・こと座~〔中止〕
- 10月22日(土)・23日(日)〔一泊二日〕
“パワースポット”伊勢神宮と平城京視察研修
- 10月30日(日) “土佐の投げ入れ堂”聖神社(小日浦)の参道整備
- 11月 緑の募金公募事業
- 12月 炭焼き体験

スタッフの声、声、声

〔山中〕 去る9月18日にノルウェーで開催された欧州ジオパークネットワーク会議で、「室戸ジオパーク」の世界ジオパークネットワークへの加盟認定が発表されました。

室戸の世界ジオパーク認定を心から喜び申し上げます。日本では、室戸が5地域目となりました。ジオパークは、地球、大地の自然公園で、地質遺産、文化遺産、生態系の多様性など、貴重な資源の保護と活用に取り組んで、地域の持続的な発展につなげることを目的としています。

越知町では、佐川町、日高村、仁淀川町、津野町、梶原町、越知町の6町村で、「仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会」を設立して、世界ジオパーク認定に取り組んでいます。

横倉山は、4億年前後の地層・岩類が広く分布するところとして知られ、ジオパークとしての素材(地質)としては、日本最古の化石「コノドント」の産地、日本最古の大型化石「クサリサンゴ、ハチノスサンゴなど」の産地、日本最古の植物化石「リン木」の産地、日本唯一の「筆石」化石の産地、日本最多の三葉虫・直角石の産地、四国で2番目に深い石灰洞の堅穴「星ヶ滝洞穴」など、横倉山自体が地質遺産と言えます。

このように、横倉山は、ジオパークにふさわしい山です。横倉山自然の森博物館には、これらの化石の展示や宇宙の誕生、地球の歴史、日本列島の形成などわかりやすく展示しています。是非ご来館ください。

また、越知町は、この横倉山の地質を保護するため、横倉山の南斜面(兜嶽付近から市山の上方)を、約4ha購入しました。町民の皆さんといっしょに、越知町の財産である横倉山を守って行きたいと思えます。

〔河添〕 コスモス祭りも終わり、秋も深まってきました。実りの秋、新高梨にサツマイモ、

越知は美味しいものがいっぱいです。コスモス祭りでは、今年も各お店が新作料理を楽しませてくれました。今年の私一押しは、かつサンドとツガニ茶碗蒸でした。その他もいろいろよく考えるな~と思うスイーツとか、日本人の工夫力とまじめでコツコツには本当に感心させられます。もちろん私も日本人ですが、洋食も中華も日本独特のアレンジで美味しいメニューを作っています。オムレツはオムライスに泣顔は味噌ラーメンに! 絶対こちらの方が美味しい~と思いませんか?

私たち国際交流協会も7年前から韓国料理と日本料理のコラボ第一弾として「キムチ炊き込みご飯(1パック300円也)」を越知町文化祭会場販売しています。キムチの辛みのしみたご飯に半熟目玉焼きがトロツと、「う~ん、たまらん」うまさです。そして、韓国人による越知町民のための韓国人気焼き菓子「ホトック」も実演販売いたします。どちらも数に限りがございます、お早めにお越しください。ヨロブン オソオセヨ~(皆さん、いらっしやいませ~)

〔安井〕 あれからもう半年が過ぎた...東北地方大震災。しかし、その恐怖が覚めやらぬうちに今度は夏に紀伊半島を台風が襲い、またしても甚大な被害と多くの尊い人命が失われた。我が家とかげがえのない家族を失いつつも、陣頭に立って指揮に当たるとある町長の姿が痛々しかった。先の東北地方大震災の時もそうであったが、住民を津波から避難させるためにギリギリまで町内放送をしていて、結局津波に呑み込まれて自らの命を落とした役目の女子職員も大変気の毒であった。住民のために公務を優先し全うする公務員としての責任ある姿を見たような思いがする。共に決して忘れることのない筆舌に尽くし難い災害ではあったが、反面実にいるんな

教訓を残した。過去の苦い経験・教訓を忘れないこと、お互い助け合って生きる精神(絆)、原発の恐ろしさ、そして電気の有難さ(節電)...等々。人類の進歩・発展の陰には必ず多大な犠牲がある。

〔壬生〕 仁淀川で拾った小石にマジックや絵具で絵を書くストーンペインティングというイベントを行いました。参加してくれた子どもたちは動物や景色など自由に描いてくれました。石の形を活かした見事な作品にビックリです。自分も挑戦してみましたが、絵心がないことを再確認しました。

〔伊藤〕 気温が下がって秋らしくなってきたと思っていたら、博物館の駐車場で金木犀の香りがすることに気づきました。日を追うごとに館内のロビーでも香りが充満するようになりました。木が周囲を探しても見当たりませんが、これだけ香るのだからきっと大きな木のだろうとみんなで話していました。数日後、木を見つけました。博物館の真下のドライブイン片岡の横にありました。背が高く、車でしか通らないので気が付かなかったようです。不思議なことに近づいても香りがしませんでした。

〔小野〕 前回の『不思議の森から』に自家製のサクランボ味わいたいと書きましたが、その後どうなったかといひますと...豊作に恵まれ飽きるほど食べることができました! 我が家のペットと共に独特の甘酸っぱさを満喫しました。

〔吉田〕 植物にあまり関心がなかった私。博物館にきて最近では、植物の名前が出てくると自然と図鑑を開いています。まだまだ自分自身、知らない一面があるようです。紅葉の綺麗な頃に横倉山にも一度、登ってみたいと思う今日この頃です。

高知県越知町立



〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620
http://www.town.ochi.kochi.jp/

開館時間: 午前9時より午後5時まで

最終入館は午後4時30分

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

12月29日から翌年の1月3日まで

入館料: 大人.....500円 各20名以上
 高校・大学生.....400円 上の団体は
 小・中学生.....200円 100円引き。

越知への交通

高知 JR特急 約30分 佐川 バス 約15分 越知
 JR普通 約50分

